

THIS TIME SHOP

「呼吸する整備工場」を
コンセプトに
物流の課題と気候変動に
立ち向かう

株式会社 エフテック

本社・本社工場

千葉県千葉市若葉区上泉町958-56



昭和46年(1974年)の創業から50周年の節目を迎えた株式会社エフテックは予防と予測の観点からユーザーの稼働を最優先に整備を行うトラックモニタリングサービス(TMS)®や架装を含めた車体整備など大型車のアフターサービスのあらゆるノウハウを蓄積した大型車整備をはじめ、「DPR アクティブメンテナンス®」と称する排気ガス浄化システムのメンテナンス(ビジネスモデル特許や各種装置の開発特許取得)など、物流の課題に対する様々な業務改善メニューを展開する整備事業者です。

2020年に同社は本社工場を移転。生産効率の向上はもちろん、「呼吸する工場」をコンセプトに気候変動や自然災害へのBCP(事業継続計画)、そして整備士の労働環境改善といった課題の解決にも力点を置いた次世代型整備工場を竣工させました。

POINT 1 25mフルトレーラーの入出庫を想定 スルーレーン・縦列レイアウトで作業効率を最大化



同社の経験則と今後の物流業界の将来予測を採り入れた設計により、生産効率と整備士の労働環境を改善する新工場は経営戦略型整備工場です。レッカー車による車両の搬入を安全かつ容易に行う緻密に計算された敷地入口の勾配をはじめ、25mフルトレーラーの入出庫を想定したスルーレーンの工場レイアウトは4柱リフトと2柱リフトを縦列に配置することで車両の動線を最適化。円滑な作業が実現することで生産性を高め、増加する入庫に対応しました。

スルーレーンと縦列ストールで効率的な導線を確保。効果的な設備投資で繊細な効率を向上。

POINT 2 大型換気扇を設備した「呼吸する工場」で酷暑対策 BCP対策機能を強化しサステイナブル経営を具現化



部品洗浄機は廃液交換等の設備管理を簡素化し、効率化を実現

温度センサーを設備し、場内の温度が28度以上になると北側から空気を吸入し5分で熱を排出する構造を採用。

気候変動に伴う酷暑対策は自動車整備業界でも深刻な課題のひとつです。エアコン完備の事業場が増える中、同社が出した解は「呼吸する工場」です。事業場の天井を高くし、大型換気扇を8基設備することで、空気の循環による排熱効果で、快適な作業場を実現しました。

また、頻発する自然災害、発生が想定されている巨大地震などに対し、同社が策定した事業継続計画(BCP)は、2020年に経済産業省より認定されました。本社工場では水の確保、食料の備蓄などBCP対策を行っています。